

〈大震災〉

① 地震発生時の対応

キャンパス内にいる場合

自身の“身”の安全を確保する

・ガラス、落下物、危険物等を避け、机の下に潜るか、バップ・衣類で頭を覆う。

“脱出路”を確保する

・ドアを開けて、避難口を確保する。

“火気”を消す

・実験等で火気を使っているときは火を消す。
※エレベーターに乗っている場合は、最寄の階のボタンを押して、停止した階で降りる。閉じ込められた場合はインターホンで救助を求める。

キャンパス外にいる場合

周囲の状況に注意して安全の確保を最優先する

・塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
・「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」を自身の身の安全を最優先に判断する。

④ 避難場所での留意点

授業中で教室にいた場合

・授業の教員を中心にひとかたまりになり、教員の指示のもと冷静に待機する。
・同じ授業を受けていた友人等が避難しているかどうかを確認する。
・建物内に取り残された者がいる場合は、教職員に伝える。

部室、食堂、ラウンジ等にいた場合

・部員・友人・仲間同士でひとかたまりになって、教職員の指示があるまで、冷静に待機する。
・部員や直前に身近にいた友人等が避難しているかどうかを確認する。
・避難できなかったと思われる者がいる場合は、教職員に伝える。

※和洋女子大学は市川市の緊急避難場所の指定を受けている。災害時には近隣の方も避難してくることもあるので、教職員や市川市の職員の指示を聞いて互いに助け合う。



② 揺れがおさまった時の対応

周囲の安全を確認する

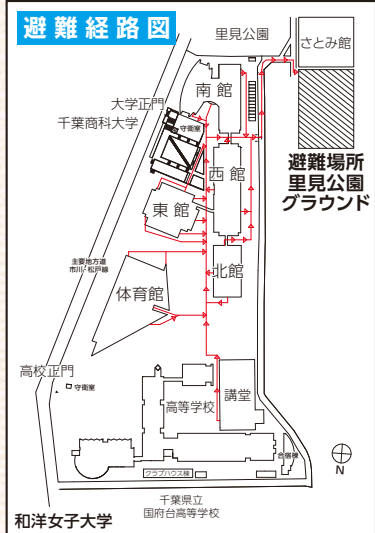
・使用中の電気器具はコンセントを抜き、火気類は元栓を締める。火災が発生している場合は周りに知らせるとともに、安全な範囲で初期消火を行う。
・薬品等危険物の確認を行い、安全な状態に収納する。
・周囲の安全を確認し、負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当を行う。
・近隣・周囲で助け合う。
・教職員の避難誘導または学内放送がある場合、その指示に従い行動する。

※余震に注意

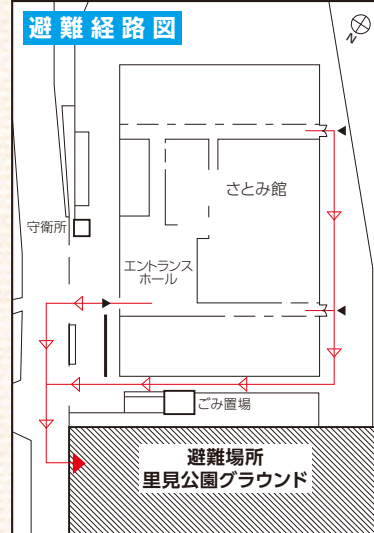
安全を確認できない場合は避難場所へ

・建物からの移動では不用意に飛び出さない。
・エレベーターは使用しない。
・見通しが悪い時は誘導灯を目印とする。
・移動中も落下物やガラスに注意する。
・地面の亀裂、陥没や余震に注意する。
・火災が発生している場合は、煙を吸わないよう姿勢を低くしタオルやハンカチなどで口を覆う。

③ 避難場所(里見公園グラウンド)



避難場所：市川市国府台2-3



避難場所：市川市国府台2-3

⑤ 帰宅する場合の留意点

・余震がおさまり落ち着いたら、教職員の指示を受けて帰宅を検討する。
・交通機関が長時間不通の場合は徒歩で帰宅することになる。目安は一般に20kmと言われる。20kmよりも遠い人は学内に留まり教職員の指示に従う。
・夜間の行動は危険。犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、一人での行動は避ける。
・地震後帰宅する学生は、避難場所から配付される「災害時緊急連絡カード」に必要事項を記入の上、教職員に提出する。
・大学から全員の安否確認をポータルサイトなどで行うので、自宅または他の避難先に落ち着いたら、大学に返信する。
・携帯電話が使用できないときは、ハガキ等の他の手段で安否報告をする。



報告内容

・氏名、学部、学年、学籍番号、自身・家族の安否情報（ケガや自宅の損壊の程度など）、現在の居場所、連絡可能な電話番号

●安否確認連絡先

和洋女子大学 学生課（北館2階）
〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1
電話 047-371-1123
メール gakusei@wayo.ac.jp



◎徒歩帰宅への備え

- ・一度は徒歩・バスでの帰宅の経験をもつ（災害時徒歩2.5km/h）
- ・作って携行しよう帰宅地図（複数のルートを想定して作成）
- ・「災害時帰宅支援ステーション」の確認（千葉・東京・埼玉・神奈川等のコンビニ・ファミレス・ガソリンスタンドにステッカー貼付）
- ・携帯ラジオなどの携帯（災害情報入手の手段）
- ・簡易食料や防寒具、歩きやすい靴の備え



災害 対応マニュアル

財布・定期に入れて携帯しましょう

自分を守る基本

- 正確な情報
- 冷静な判断
- 迅速な行動



災害用自分 MEMO

（油性ペン使用）

- 氏名
- 学部
- 学籍番号
- 現住所
- 緊急連絡先
- 携帯番号
- 家族との待ち合わせ場所

- * 血液型
- * 持病
- * 薬
- * アレルギー

